

東京都大田区

## 久ヶ原遺跡

### 発掘調査報告書

—久が原六丁目6番17号地点の調査—

2021

創建ホームズ株式会社  
共和開発株式会社







東京都大田区

## 久ヶ原遺跡

発掘調査報告書

—久が原六丁目6番17号地点の調査—

2021

創建ホームズ株式会社  
共和開発株式会社



## 例 言

1. 本書は、東京都大田区久が原六丁目6番17号に所在する「久ヶ原遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 調査は、分譲住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査として、土地所有者である創建ホームズ株式会社の委託を受け、大田区教育委員会指導のもと、共和開発株式会社が実施したものである。調査面積は21m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査から報告書作成までの費用は、創建ホームズ株式会社の負担によるものである。
4. 調査は、現地調査を令和2年8月1日から8月7日まで行い、整理作業・報告書作成作業を令和2年8月11日から11月27日まで、共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センターにて行った。
5. 本書の編集は、伊庭彰一が行った。執筆は、「I-1. 調査に至る経緯」を伝田郁夫・門内政広（大田区教育委員会）、その他を伊庭彰一、文責を示すため文末に執筆者名を記した。
6. 本書掲載の遺構図の作成・トレース、遺物図の作成・トレースは福井泰弘が行った。また、遺構写真は伊庭、遺物写真是土田雅美が撮影した。
7. 本調査において出土した遺物及び写真等の記録類は、大田区教育委員会において収蔵保管している。
8. 本書作成にあたり、以下の方々及び機関からご指導、ご協力を賜りました。記して感謝申し上げます（順不同・敬称略）。

浜田晋介 小坂延仁 大田区教育委員会

調査体制（五十音順・敬称略）

調査指導 大田区教育委員会

調査担当者 伊庭彰一

発掘調査・整理作業参加者

石川太郎 石村 崇 酒井真之 進藤芳孝 高林 均 土田雅美 内木小夜子 福井泰弘  
結城智子

## 凡 例

1. 本書における実測図の縮尺については、それぞれの図版に示した。
2. 遺構平面図及び断面図で使用した標高の基準はT.P. (Tokyo Peil) である。
3. 本書内の座標値については、世界測地系座標を使用している。
4. 本書内の遺物観察表における「法量」では、( ) は推定値、一は不明・計測不能を示し、単位はcmである。
5. 遺構の土層説明で、色調は「新版標準土色帖」(2006年)で該当する番号を記載した。
6. 本書内の遺構・遺物実測図で使用した線種・スクリーントーンは、各図中において凡例を示している。

## 目 次

例 言  
凡 例  
目 次 / 挿図目次 / 挿表目次 / 図版目次

I 調査の概要	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の方法と経過	2
II 遺跡の位置と環境	3
1 地理的環境	3
2 周辺の遺跡と久ヶ原遺跡	4
III 遺構と遺物	8
1 遺構	8
2 遺物	10
IV 調査のまとめ	13
引用・参考文献	14
写真図版	
報告書抄録/奥付	

### 挿図目次

第1図 試掘トレーン配置図	2
第2図 大田区の地形	3
第3図 周辺の遺跡	4
第4図 調査地点位置図	6
第5図 遺構配置図	7
第6図 1号住居跡実測図（1）	8
第7図 1号住居跡実測図（2）	9
第8図 1号住居跡遺物分布図	9
第9図 1号住居跡・遺構外出土遺物	11

### 挿表目次

第1表 周辺遺跡一覧表	5
第2表 1号住居跡・遺構外出土遺物観察表	12

## 図版目次

### 図版 1

- 図版 1-1 調査区調査前全景 (北から)
- 図版 1-2 1号住居跡検出全景 (東から)
- 図版 1-3 1号住居跡検出全景 (西から)
- 図版 1-4 1号住居跡完掘全景 (東から)
- 図版 1-5 1号住居跡完掘全景 (西から)
- 図版 1-6 1号住居跡東西断面 (南から)
- 図版 1-7 1号住居跡南北断面 (西から)
- 図版 1-8 1号住居跡 P 1 完掘全景 (西から)

### 図版 2

- 図版 2-1 1号住居跡 P 1 南北断面 (西から)
- 図版 2-2 1号住居跡 P 2 完掘全景 (北から)
- 図版 2-3 1号住居跡 P 2 東西断面 (北から)
- 図版 2-4 1号住居跡 P 3 完掘全景 (東から)
- 図版 2-5 1号住居跡 P 3 南北断面 (東から)
- 図版 2-6 1号住居跡周溝南北断面 (東から)
- 図版 2-7 作業風景 (西から)
- 図版 2-8 作業風景 (東から)

### 図版 3

- 図版 3-1 1号住居跡・遺構外出土遺物

# I 調査の概要

## 1 調査に至る経緯

本書で報告する発掘調査地点は、東京都大田区久が原六丁目6番17号（住居表示）に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）である「久ヶ原遺跡」（大田区遺跡番号81）の範囲に含まれる。

令和2年6月11日、分譲住宅の建築計画に伴い、創建ホームズ株式会社（以下、事業者と呼称）より大田区教育委員会大田図書館文化財担当（以下、区教委と呼称）宛てに、文化財保護法第93条第1項に基づく『埋蔵文化財発掘の届出』が提出された。区教委は2大図取第10127号で届出を收受し、6月12日付・2大図発第10281号で東京都教育委員会（以下、都教委と呼称）へ進達した。都教委は、6月22日付・2教地管理第1032号で、施工計画からみて遺跡の遺存状態・内容等を把握するための試掘調査が必要である旨を事業者宛てに通知した。それを受け、区教委は施工計画に基づいた試掘調査の仕様書を作成し、事業者は民間調査組織へ調査費用の見積を依頼した。調査は、事業者から委託を受けた共和開発株式会社（以下、調査会社と呼称）が担当することになった。敷地南側にトレンチ1箇所（7.0m×1.5m）を設定し、区教委立会いのもと、令和2年7月8日に実施した。

試掘調査の結果、表土下約60～70cmは後世の盛土によって大きく搅乱を受けていたものの、トレンチ北側で弥生時代の竪穴住居跡1軒の一部をはじめピット1基を検出するとともに、住居跡覆土内から弥生土器片6点、焼け礫1点が出土したことから、トレンチ底面付近では、遺構が比較的良好に残存していると想定されたため、施工計画によって埋蔵文化財に影響が及ぶ約21.0m<sup>2</sup>（7.0m×3.0m）の範囲を対象として、本発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、試掘調査に引き続き共和開発株式会社が担当することになり、事業者・調査会社・区教委による三者協定書の締結後、調査会社より令和2年7月27日付で文化財保護法第92条第1項に基づく『埋蔵文化財発掘調査の届出』が提出され、区教委は2大図取第10184号で届出を收受し、同日付・2大図発第10483号で都教委へ進達した。

本発掘調査は令和2年8月1日から8月7日までの期間で実施した。

（伝田・門内）

## 2 調査の方法と経過

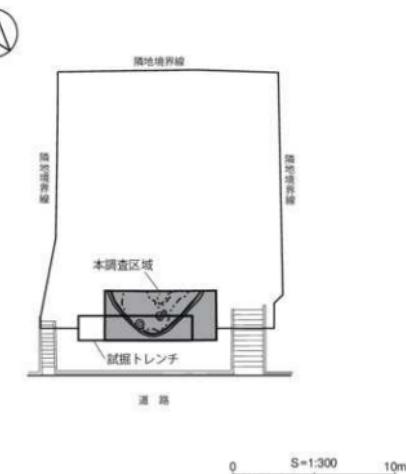
本調査は、分譲住宅新築工事に伴い、その建設予定範囲において先行して行われた試掘調査の結果に基づき、確認された埋蔵文化財の記録保存のため実施した。調査面積は建設予定範囲のうち駐車場部分の 21m<sup>2</sup>が対象となつた。

試掘調査は令和 2 年 7 月 8 日に、東西 7.0 m、南北 1.5 m のトレンチを 1 箇所設定して実施した。現表土から約 70cm 下位の武藏野台地標準層序の II c 層（ローム漸移層）を遺構確認面とした。精査の結果、住居跡 1 軒が確認された。検出された遺物は、弥生土器片 6 点、焼け礫 1 点であった。住居跡の所属時期は検出された遺物から、弥生時代後期と推定された（第 1 図）。

本格調査は 8 月 1 日から実施した。確認調査で検出された住居跡を中心に調査区を設定し、表土部分を重機によって除去し、発生土は場内に仮置きした。表土除去後に遺構確認作業を行い、住居跡 1 軒を検出した。調査区を精査し、遺構確認状況を写真撮影した後、住居跡の掘削調査を開始した。住居跡は土層観察用のベルトを設定し、人力で掘り下げて覆土の堆積状態と完掘状態を記録した。遺物は、遺構確認面及び表土・攪乱のものは一括で取り上げ、遺構内特に住居跡内のものに関しては、極力出土位置と高さ及び出土状態を記録した。この遺物出土地点の記録と遺構平面図の作成については、自動追尾トータルステーションを使用し、現地調査の効率化を図った。

8 月 5 日に住居跡の調査を終了し、全景写真撮影を行った。8 月 6 日に測量作業を行い、8 月 7 日に埋戻作業と現地養生作業を終え、全ての作業を完了した。同日区教委担当者の現地会確認を受けた後、撤収作業を行い、現地調査を終了した。

8 月 11 日より共和開発株式会社聖蹟桜ヶ丘研修センターにおいて整理調査を開始した。11 月 27 日に報告書編集を完了し、本報告書の刊行をもって調査をすべて終了した。



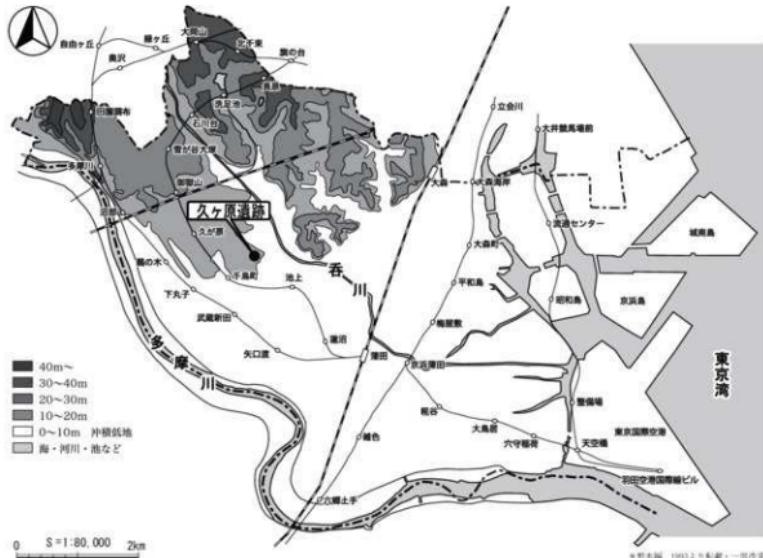
第 1 図 試掘トレンチ配置図

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

今回の発掘調査地点は、東京都大田区久が原六丁目6番17号に所在し、東急池上線千鳥町駅の北方向約400m、「久ヶ原遺跡」（大田区遺跡番号81）の西側中央部に位置する。本調査地の標高は約16mで、周囲は住宅地として開発されており、市街地化している。

大田区は東京都の南東部に位置し、北側は品川区・目黒区・世田谷区、南・西側は多摩川を挟んで神奈川県川崎市と接し、東側は東京湾に面している。区内の地形は、武蔵野台地の南東端にあたる北西部の台地（標高10～50m）と沖積低地、及び東京湾岸部の埋立地からなる南西部の低地（標高0～5m）に大別される。武蔵野台地は、古多摩川によって形成され、青梅付近を要とした扇状地といわれており、北を入間川、南を多摩川、東を荒川に囲まれた、東西約50kmにわたる日本最大級の洪積台地である。標高は青梅付近で約180m、立川で約90m、吉祥寺で約50m、東端部では10～20mとなる。高位から順に、多摩面（T面）・下末吉面（S面）・武蔵野面（M面）・立川面（Tc面）・拝島面（H面）からなり、久ヶ原遺跡周辺は武蔵野面にあたる。武蔵野台地東部では、東京湾に流れ込む河川によって小台地に分けられ、区内では、呑川によって開析された2つの台地があり、久が原台・荏原台と呼称されている（第2図）。久ヶ原遺跡は久が原四丁目から六丁目及び千鳥一丁目にかけて広がり、久が原台の南半分に位置する。旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、東西約500m、南北約600mに及ぶ。特に南関東における弥生時代後期の「久ヶ原式土器」の標識遺跡として著名である。



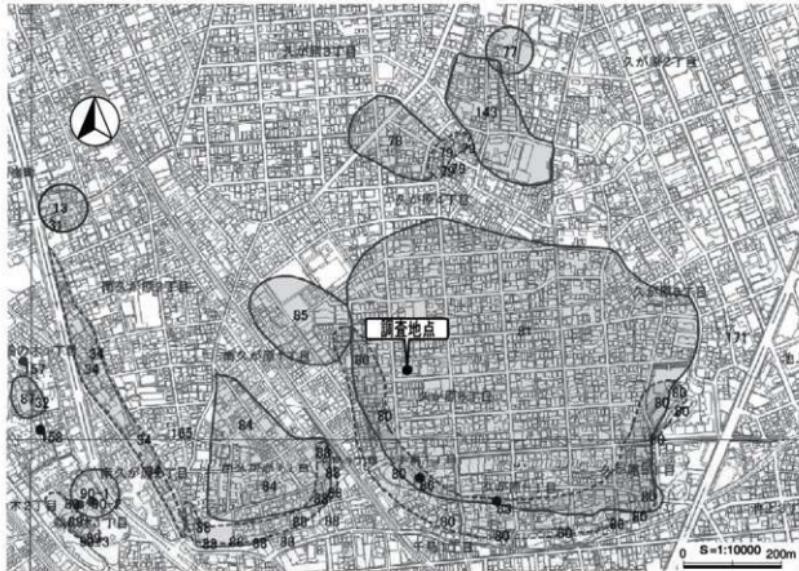
第2図 大田区の地形

## 2 周辺の遺跡と久ヶ原遺跡

### (1) 周辺の遺跡

大田区内には、現在、旧石器時代から近世まで、約230ヶ所の遺跡が確認されており、9割以上は台地上に存在する。時代別には、古墳時代が最も多く半数以上を占め、縄文時代・弥生時代と続く。調査地周辺にも多くの遺跡が存在するが、ここでは時代を追って主要な遺跡について触れておく（第3図・第1表）。

まず旧石器時代の遺跡として、久原小学校内遺跡（大田区遺跡番号 143）や光明寺遺跡（大田区遺跡番号 90-1）からは、石器集中部や縄文群が検出されている。縄文時代の遺跡では、前・中期の久ヶ原貝塚・久ヶ原町 1026 番地貝塚（大田区遺跡番号 78）から土器の出土が報告されている。中・後期の千鳥久保貝塚（大田区遺跡番号 85）では鳥形骨器を伴う人骨が住居跡から出土した。後期の久原小学校内遺跡では土器や石器が報告されているほか、前期の包蔵地である天使幼稚園付近遺跡（大田区遺跡番号 77）などがある。弥生時代は、久ヶ原遺跡が著名であるが、近隣の久原小学校内遺跡では、これまでの調査で後期から古墳時代にかけて多くの住居跡が検出されたほか、周辺の光明寺遺跡でも住居跡や方形周溝墓が検出されている。古墳時代では、久ヶ原遺跡や嶺遺跡（大田区遺跡番号 84）の南側台地縁辺部に展開する久ヶ原横穴墓群（大田区遺跡番号 80）、根岸横穴墓群（大田区遺跡番号 88）や大塚古墳（大田区遺跡番号 86）のほか、スリバチ山古墳（大田区遺跡番号 83）からは埴輪が出土している。中世では、大桜大塚（大田区遺跡番号 165）がある。径約 10 m、高さ約 2 m の塚の形成がみられ、土器や板碑が出土している。また、図からは外れるが多摩川左岸の沖積低地に所在する西六郷一丁目 22 番貝塚（大田区遺跡番号 208）は奈良・平安時代の貝塚として周知されており、西六郷一丁目 18 番地点の調査では、中世の貝塚が検出された。貝塚の形成時期は、14～15 世紀と推測され、常滑窯製品や中国郡武窯の多角壺などが出土している。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	遺跡の種類	現状	時代	遺跡の概要		出土遺物
34	南久が原二丁目横穴墓群	南久が原二丁目19・24・25番	横穴墓	宅地 道路	古墳 奈良	台地斜面 横穴墓2		人骨7
77	天使幼稚園付近遺跡	久が原四丁目2~8番	包蔵地	宅地 幼稚園	調文	台地・ 台地斜面		土器
78	久ヶ原貝塚・久ヶ原町1026番地日塚	久が原三丁目28~30・40番 久が原四丁目10・16~18番	貝塚	宅地	調文	台地・ 台地斜面		土器
79	久が原四丁目横穴墓群	久が原四丁目11・14番	横穴墓	宅地	古墳 奈良	台地斜面 横穴墓3		人骨
80	久ヶ原横穴墓群	久が原四丁目36番 久が原五丁目25・27・30・33番 久が原六丁目7・14・24・26・ 27番 千島一丁目1・2番 南久が原一丁目10番	横穴墓	宅地	古墳 奈良	台地斜面 横穴墓70 組合式石棺		土器器 頸壺器 刀子 鐵鏃 玉類 耳飾 人骨5
81	久ヶ原遺跡	久が原四丁目21~24・26~34 ・37~44番 久が原五丁目6~10・18~27・ 30~33番 久が原六丁目1~27番 千島一丁目1・2番	集落跡	宅地	弥生 古墳 中世	台地・ 台地斜面		集落270,000m <sup>2</sup> 伊勢(調文) 貯藏穴 柱穴 鏡面・環濠・住居 (弥生)
83	スリバチ山古墳	久が原六丁目24番	古墳	宅地	古墳	台地		埴輪(円筒・人物)
84	鶴遺跡	南久が原一丁目12・16~25番 千島三丁目1~4番	集落跡	宅地	弥生	台地		土器
85	千島久保貝塚	南久が原一丁目4・7・8番 久が原四丁目35・36番	集落跡 貝塚	宅地	調文	台地・ 台地斜面		土器 打製石斧 回石 鹿角棒 人骨
86	大塚古墳	千島一丁目1番	古墳	宅地	古墳	台地		埴輪(円筒・朝顔形)
88	根岸横穴墓群	南久が原一丁目12・18・25番 千島三丁目1~4番	横穴墓	宅地	古墳 奈良	台地斜面 切石造門		須恵器 板碑 人骨
89	光明寺横穴墓群	鶴の木一丁目22・23番	横穴墓	宅地 寺院	古墳 奈良	台地斜面 横穴墓3		土器器 頸壺器 刀子 人骨
90-1	光明寺遺跡	鶴の木一丁目19~21・23番, 光明寺付近	集落跡 その他の墓	宅地 寺院	旧石器 調文 弥生 古墳 奈良 中世 近世	台地		石器集中 磨群 (旧石器) 土坑(調文) 住居・方形周溝墓 (弥生) 埴墓(中世) 墓地(近世)
90-2	荒塚1号墳	鶴の木一丁目23番(光明寺上墓)	古墳	墓地	古墳	台地		円墳 径23.4m 円筒埴輪
90-3	荒塚2号墳	鶴の木一丁目23番(光明寺上墓)	古墳	墓地	古墳	台地		円墳 径16.5m 埴輪径1 円筒埴輪
143	久原小学校付近遺跡	久が原四丁目5~8・11・12番	集落跡	宅地 学校	旧石器 調文 弥生 古墳 奈良 平安	台地・ 台地斜面		柱穴(調文) 住居(弥生・古墳) 火葬墓(平安) 旧石器(磨群 搢器 磨石 石核 硫石) 打製石斧 磨製石斧 土器(調文・弥生) 藏骨器3(土器器)
165	大桜大塚	南久が原二丁目26番	その他 (塚)	宅地	中世	台地		塚 径10m 土器 板碑
171	久が原五丁目17番横穴墓	久が原五丁目17番	横穴墓	宅地	古墳 奈良	台地斜面 横穴墓1		人骨1

## (2) 久ヶ原遺跡

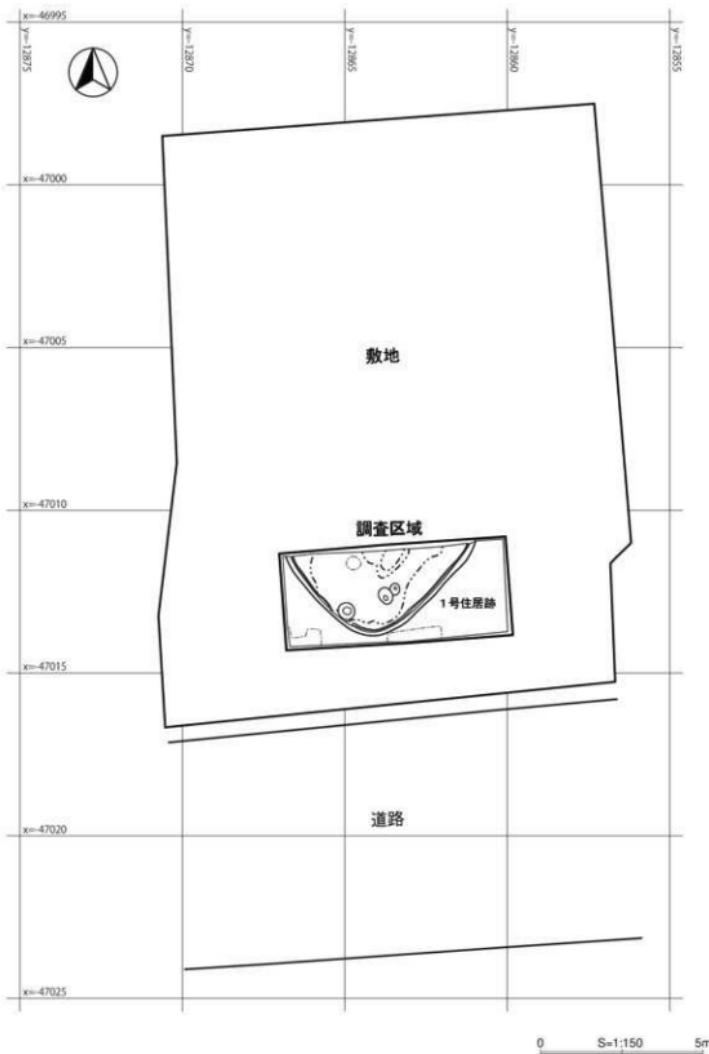
久ヶ原遺跡は、戦前の1927(昭和2)年に始まった耕地整理に伴う道路工事の切り通し断面から、弥生時代の住居跡や遺物が発見されたことから明らかになった。しかし、調査された位置は不明瞭なものが多く、また遺構の測量図など正式な報告がない。

戦後もなほは戦災処理による調査が行われた。1970(昭和45)年以降は住宅地開発工事に伴う事前の緊急調査が数多く行われたが、いずれも小規模な調査であった。1997(平成9)年には久が原六丁目27番地において、久が原グリーンハイツ内遺跡が調査され、これまでにない大規模調査によって集落が久が原台の東縁に及ぶことが明らかとなった。検出された遺構・遺物の時期は、旧石器時代～古墳時代、中・近世～近代に及ぶ。弥生時代では住居跡52軒と環濠3条が調査された(1999 小出他)。

本調査地点(①)周辺を概観すると(第4図)、六丁目13番A地点(②)では弥生時代後期の住居跡1軒と古墳時代後期の住居跡1軒が、隣接する六丁目13番B地点(③)では弥生時代後期の住居跡3軒と近世以降の溝1条が検出された(2015 大田区教育委員会)。六丁目14番8号地点(④)では弥生時代後期の住居跡1軒と中世の溝1条が検出された(2007 大田区教育委員会)。六丁目18番18号地点(⑤)では環濠が1条検出されている(1990 大田区教育委員会)。六丁目23番地点(⑥)では弥生時代後期の住居跡1軒が検出された(2007 大田区教育委員会)。六丁目9番1号地点(⑦)では弥生時代後期の方形周溝墓5基と弥生時代から古墳時代にかけてと想定される集石跡1基が検出された。この調査で、久が原台の縁辺部に居住域が展開し、その中央部に墓域を造営するという集落構成が考えられた(2007 大田区教育委員会)。六丁目12番7号地点(⑧)では弥生時代後期の方形周溝墓の周溝部分が検出された(2007 大田区教育委員会)ほか、図からは外れるが⑦・⑧の東側に所在する六丁目11番6号地点では弥生時代後期の方形周溝墓3基などが検出された(2008 鈴木他)。



第4図 調査地点位置図



第5図 遺構配置図

### III 遺構と遺物

#### 1 遺構

##### (1) 住居跡

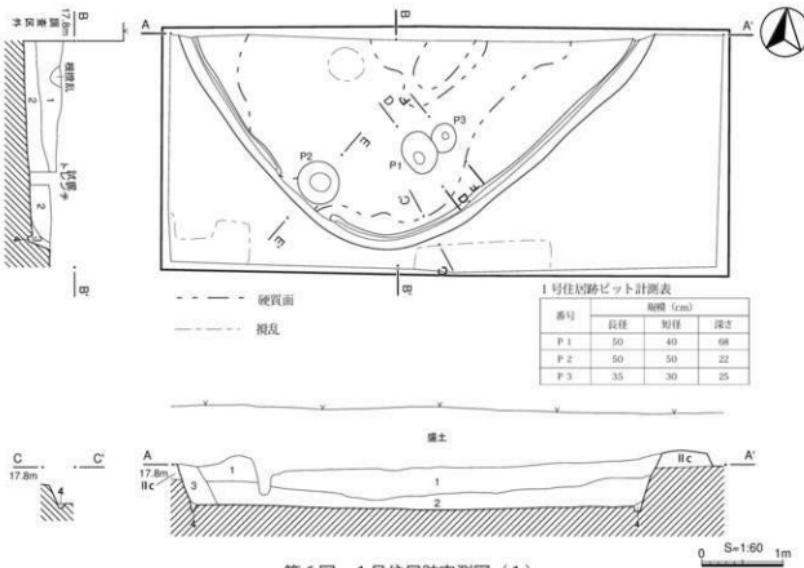
今回の調査では、弥生時代の堅穴住居跡 1 軒が検出された。建設予定範囲のうち、駐車場部分の 21m<sup>2</sup>と限られた範囲での調査であった（第 5 図）。調査区域内は、旧建物の解体に伴う削平などで、上部は整地のため盛土されていたが、下部では遺構確認面であるローム漸移層の II c 層が確認された。

##### 1号住居跡（第 6・7 図 図版 1-2～8 図版 2-1～6）

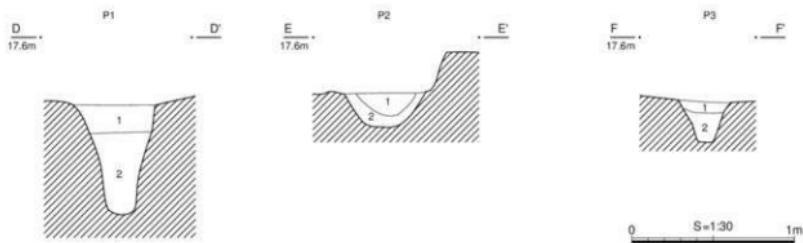
北側は調査区域外に延びるため未調査である。検出されたのは全体の 1/2 程度である。平面は圓丸方形あるいは圓丸長方形を呈すると思われる。検出規模は南北 2.6 m、東西 5.8 m、深さ約 0.55 m を測る。推定規模は一辺 5.0 ～ 6.0 m 程度と思われる。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は素掘りで細かな凹凸がある。壁から中央部にかけて硬く締まっている。主軸方向は不明である。

覆土は黒褐色土主体で四層に分けられる。4 層は周溝の覆土である。周溝は幅約 8 cm、深さ約 7 cm で、一部を除き全周するものと思われる。ピットは南東隅付近で 3 基検出された。覆土は黒褐色土と暗褐色土主体の二層に分けられる。平面は円形または梢円形を呈する。規模は径 30 ～ 50 cm、深さ 22 ～ 68 cm を測る。P 1 は深さ 68 cm で、規模や位置から主柱穴と考えられる。P 2 は円形で深さ 22 cm、P 3 は略円形で深さ 25 cm を測る。か跡は調査範囲内からは検出されなかった。

遺物は弥生時代後期の壺や甕などの土器片と古墳時代の土器片が出土した。遺物は平面分布では住居跡の中央に集中しているように見える。垂直分布では覆土上層から床面直上にかけて万遍なく分布する。出土した遺物から、当該住居跡の時期は、弥生時代後期の久ヶ原式期と思われる。



第 6 図 1号住居跡実測図 (1)



#### 1号住居跡覆土土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm)、ローム小ブロック (径 1 cm) を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm) を微量、ローム小ブロック (径 2 ~ 5 cm) を多量含む。粘性・しまりあり。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm)、ローム小ブロック (径 1 cm) を少量含む。粘性・しまりあり。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm) を微量、ローム小ブロック (径 2 ~ 5 cm) を少量含む。周溝の覆土。粘性・しまりあり。

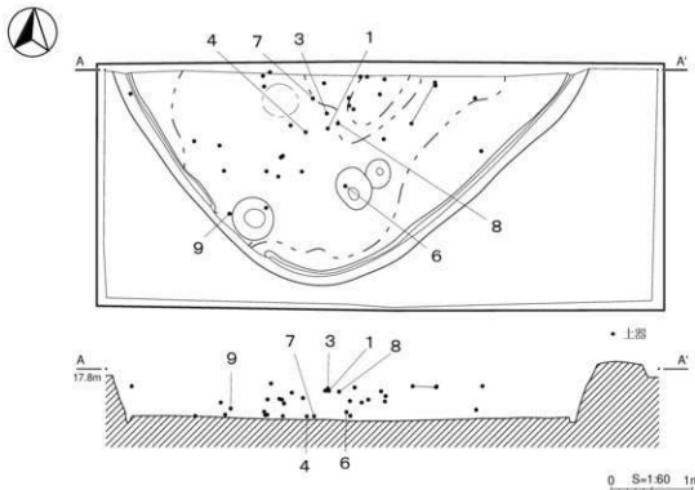
#### 1号住居跡内 1・3号ピット土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm)、ローム小ブロック (径 1 cm) を少量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm) を多量、ローム小ブロック (径 2 ~ 5 cm) を少量含む。粘性・しまり弱い。

#### 1号住居跡内 2号ピット土層説明

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm)、ローム小ブロック (径 1 cm) を微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム微粒 (径 1 ~ 3 mm) を多量、ローム小ブロック (径 2 ~ 5 cm) を少量含む。粘性・しまり弱い。

第7図 1号住居跡実測図（2）



第8図 1号住居跡遺物分布図

## 2 遺物

今回の調査で出土した遺物は1号住居跡から弥生時代後期の土器片74点、古墳時代の把手付甕の把手と思われる土器片1点と遺構外から弥生時代後期の土器片1点の総数76点である。試掘調査では弥生時代後期の土器片6点と焼け甕1点が出土している。

図示できたのは10点と少なく、1号住居跡9点、遺構外1点である。

### (1) 住居跡 (第8・9図 第2表 図版3-1)

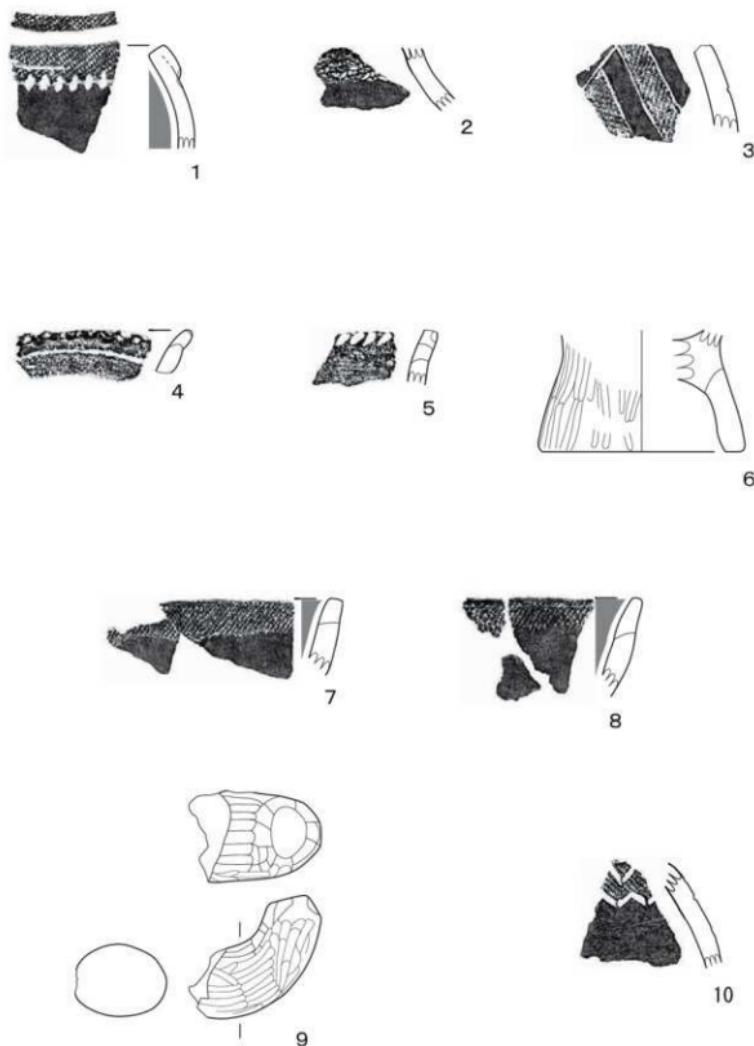
1は鉢の口縁部片である。折り返し口縁で、内外面にヨコミガキが施され、赤彩される。口縁端面と口唇部に単節繩文LRが施文され、下端の刻み目に繩文原体を押圧する。2は壺の頸部片である。外面はヨコミガキで赤彩される。上部に無節LのS字状結節繩文を施文する。内面はヨコナデが施される。3は壺の胴部片である。外面は沈線区画による幾何学文内に単節繩文LRが施文され、無文区画は赤彩される。内面はヨコナデが施される。4は甕の口縁部片である。口唇部には刻み目があり、外面はヨコナデ、内面はヨコミガキが施される。5は甕の胴部片である。外面は横位の刷毛整形、上部に刻み目を施す。内面はナデ調整を施す。6は台付甕の脚部である。外面は縦位のヘラミガキが2段施され、内面はヨコナデ調整を施す。7は鉢もしくは高杯の口縁部片である。内外面はヨコミガキが施され、赤彩される。外面の口縁端面に単節繩文LRが施文される。8も鉢もしくは高杯の口縁部片である。内外面はヨコミガキが施され、赤彩される。外面の口縁端面に単節繩文LRが施文される。9は古墳時代の把手付甕の把手と思われる。全面はヘラケズリ後、ヘラミガキ調整を施す。先端部は平坦に整形される。

1～8は弥生時代後期の土器で、大田区の弥生土器編年の大別によれば、後期Ⅲに該当する。9は古墳時代後期の6～7世紀に帰属するものと考えられる。

### (2) 遺構外 (第9図 第2表 図版3-1)

10は壺の胴部片である。外面はヨコミガキが施され、赤彩される。外面上部は沈線による鋸歯文内に単節繩文RLが施文される。内面はナデ調整を施す。

10は大田区の弥生土器編年の大別で後期Ⅲと考えられる。



赤彩  
0 S=1:2 5cm

\* 1 ~ 9 : 1号住居跡出土遺物 10 : 遺構外出土遺物

第9図 1号住居跡・遺構外出土遺物

第2表 1号住居跡・遺構外出土遺物観察表

遺物番号	図版番号	種別 器種	遺存 部位	口径 器高 底径	器形・文様・成形・調整	胎土	色調	焼成	備考
1	3-1 -1	鉢	口縁部片	—	折り返し口縁。 — 内外面：ヨコミガキ調整。口縁端面 と口唇部に単節繩文LR。下端の刻 み目に構文原体を押印。	シルト質凝灰岩粒・小石微量	内外面：にぶい褐色	良好	内外面赤彩
2	3-1 -2	壺	頸部片	—	外面：ヨコミガキ調整。上部に無節 LのS字状結節繩文。 内面：ヨコナデ調整。	細砂・黒色粒・ 小石微量、破碎土器微細粒 少量	内外面：褐色	良好	外面赤彩
3	3-1 -3	壺	胴部片	—	外面：沈錆区画による幾何学文内に 単節繩文LR。 内面：ヨコナデ調整。	砂粒・褐色粒・ 小石・破碎土器微細粒微量	内外面：にぶい黄褐色	良好	外面無文区画赤彩
4	3-1 -4	甕	口縁部片	—	口唇部に刻み目。 外面：ヨコナデ調整。 内面：ヨコミガキ調整。	細砂・石英・ 角閃石微量	外面：褐色 内面：明黄褐色	良好	
5	3-1 -5	甕	胴部片	—	外面：横位の刷毛整形・上部に刻み 目。 内面：ナデ調整。	細砂少量、白 色粒・黒色粒・ 赤色粒・小石 微量、破碎土 器微細粒少量	外面：黒褐色 内面：黄褐色	良好	
6	3-1 -6	台付甕	脚部	(5.0) 8.4	外面：底位のヘラミガキ調整が2段。 内面：ヨコナデ調整。	砂粒・小石少 量、シルト質 凝灰岩粒・黒 色粒・褐色粒 微量	外面：暗褐色 内面：灰黄褐色	良好	
7	3-1 -7	鉢か 高环	口縁部片	—	外面口縁端面に単節繩文LR。 内外面：ヨコミガキ調整。	細砂・シルト 質凝灰岩粒・ 褐色粒少量、 小石微量	内外面：明褐色	良好	内外面赤彩
8	3-1 -8	鉢か 高环	口縁部片	—	外面口縁端面に単節繩文LR。 内外面：ヨコミガキ調整。	シルト質凝灰岩 粒・小石微量	内外面：にぶい褐色	良好	内外面赤彩
9	3-1 -9	甕	把手か	高さ5.0 幅3.7 厚み2.5	内外面：ヘラケズリ後、ヘラミガキ 調整。先端部は平坦に整形。	白色粒・黒色 粒・赤色粒・ 角閃石少量	内外面：褐色	良好	古墳時代の把手付甕の把 手部分と思われる。
10	3-1 -10	壺	胴部片	—	外面：ヨコミガキ調整。沈錆区画 に単節繩文RL。 内面：ヨコナデ調整。	砂粒・小石少 量、シルト質 凝灰岩粒・黒 色粒・褐色粒 微量	外面：暗褐色 内面：灰黄褐色	良好	外面赤彩

※ 1 ~ 9 : 1号住居跡出土遺物 10 : 遺構外出土遺物

## IV 調査のまとめ

今回の調査区は、21m<sup>2</sup>と狭小な範囲での調査であったが、部分的ではあるものの弥生時代後期の竪穴住居跡1軒を調査することができた。

検出された1号住居跡は全体の1/2程度であるが、平面は隅丸方形もしくは隅丸長方形を呈するものと考えられる。推定は一辺が5.0～6.0mと推定されるが、主軸方向は不明である。床面は貼り床ではなく、素掘りで壁から中央にかけて良く踏み固められている。周溝は一部を除いて全周するものと思われる。ピットは3基検出されており、P1は他の2基（P2・P3）に比べ深さや位置から主柱穴の1本と考えられる。炉跡は調査範囲内からは検出されなかった。出土遺物から住居跡は弥生時代後期の久ヶ原式期に帰属するものと推測される。

出土遺物は1号住居跡から弥生時代後期の土器片74点、古墳時代と思われる把手付鏡の把手1点、遺構外から弥生時代後期の土器片1点の总数76点である。弥生土器は大田区の弥生土器編年の大別で後期Ⅲ、安藤広道氏の久ヶ原式土器の編年で久ヶ原式Ⅲ式に、把手付鏡の把手は古墳時代後期の6～7世紀に帰属するものと思われる。覆土下層から出土した時代の異なる把手付鏡の把手は、根掘乱あるいは後世の遺構が構築・使用・廃棄される過程で流れ込んだものと考えられる。今回の調査では、ほかに古墳時代に属する遺物や遺構は確認されていないが、周辺から数は少ないが古墳時代後期の住居跡が見つかっている。

本調査地点周辺の六丁目13番A地点では、弥生時代後期の住居跡を壊す形で6～7世紀に帰属する古墳時代後期の住居跡が検出されているほか、六丁目13番B地点、六丁目14番8号地点、六丁目23番地点では弥生時代後期の住居跡が検出されている。また、六丁目18番18号地点では環濠が、六丁目9番1号地点と六丁目12番7号地点では弥生時代後期の方形周溝墓が検出された。小規模な調査が多いなかで、これまでに検出された多くの遺構・遺物から久ヶ原遺跡においては、久が原台の縁辺部には居住域が展開し、その中央部に墓域を造営するという集落構成が想定されている。

今回の調査は一部ではあったが、弥生時代後期の竪穴住居跡の存在を確認できた。久ヶ原遺跡の西側中央部から南西部にかけても、同時期の集落が展開していたことを裏付ける資料が得られた点は、大きな成果として挙げられる。また、破片ながら古墳時代後期の6～7世紀の土師器が出土した。六丁目13番A地点と同様、今回の調査区周辺にも同時期の遺構が存在した可能性を示唆する資料を得られた。今後、古墳時代後期における集落の分布や展開を考える上でも重要な調査例になったといえよう。

(伊庭)

## 引用・参考文献

- 安藤広道 2017『久ヶ原遺跡と久ヶ原式土器』『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90年—』大田区立郷土博物館
- 大田区教育委員会 2007『久ヶ原遺跡Ⅰ 山王遺跡Ⅰ 大森射的場跡横穴墓群Ⅱ』大田区の埋蔵文化財 第18集
- 大田区教育委員会 2011『久ヶ原遺跡Ⅲ 山王遺跡Ⅲ 発掘調査報告』大田区の埋蔵文化財 第20集
- 大田区教育委員会 2015『久ヶ原遺跡Ⅴ 山王遺跡Ⅴ 下沼部貝塚Ⅱ 発掘調査報告』大田区の埋蔵文化財 第22集
- 大田区教育委員会 2017『南久が原二丁目4番横穴墓Ⅰ 久ヶ原遺跡Ⅵ 発掘調査報告』大田区の埋蔵文化財 第23集
- 大田区立郷土博物館 2017『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90年—』
- 大田区久が原グリーンハイツ内遺跡発掘調査団 1999『久が原グリーンハイツ内遺跡—大田区久が原五丁目27番所在遺跡の発掘調査—(弥生時代以降編)』
- 株式会社武蔵文化財研究所 2010『久ヶ原遺跡 発掘調査報告書—久が原5丁目18番地点の調査—』
- 共和開発株式会社 2012『西六郷一丁目22番貝塚 発掘調査報告書—西六郷一丁目18番地点の調査—』
- 大成エンジニアリング株式会社 2008『久ヶ原遺跡—大田区久が原六丁目11番6号地点の埋蔵文化財発掘調査—』
- 比田井克仁 1999「遺物の変遷—遺物から見た後期の社会変革—」『文化財の保護 特集弥生時代の東京』東京都教育委員会
- 比田井克仁 2001『関東における古墳出現期の変革』雄山閣
- 比田井克仁 2004『古墳出現期の土器交流とその原理』雄山閣

# 写 真 図 版





1-1 調査区調査前全景（北から）



1-2 1号住居跡検出全景（東から）



1-3 1号住居跡検出全景（西から）



1-4 1号住居跡完掘全景（東から）



1-5 1号住居跡完掘全景（西から）



1-6 1号住居跡東西断面（南から）



1-7 1号住居跡南北断面（西から）



1-8 1号住居跡P1完掘全景（西から）

図版2



2-1 1号住居跡P 1南北断面（西から）



2-2 1号住居跡P 2完掘全景（北から）



2-3 1号住居跡P 2東西断面（北から）



2-4 1号住居跡P 3完掘全景（東から）



2-5 1号住居跡P 3南北断面（東から）



2-6 1号住居跡周溝南北断面（東から）



2-7 作業風景（西から）



2-8 作業風景（東から）

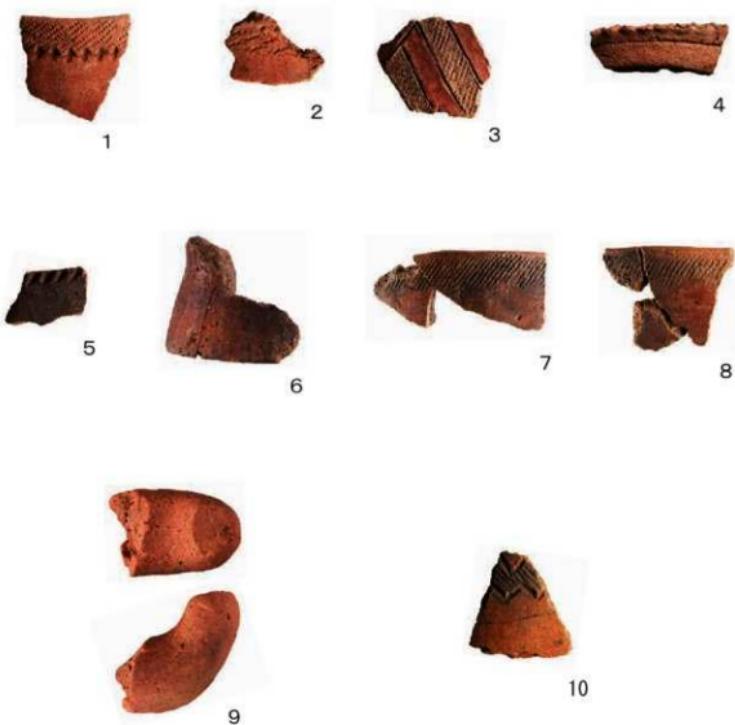


図3-1 1号住居跡・遺構外出土遺物 10:遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな 書名	とうきょうとおおたく くがはらいせき はっくつちょうさほうこくしょ 東京都大田区 久ヶ原遺跡 発掘調査報告書							
副書名	久が原六丁目6番17号地点の調査							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	伊庭彰一 伝田郁夫 門内政広							
編集機関	共和開発株式会社							
所在地	〒206-0011 東京都多摩市閑戸5-1-14 (TEL) 042-316-9916							
発行年月日	2021年1月5日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くがはらいせき 久ヶ原遺跡	とうきょうとおおたく 東京都大田区 くがはら 久が原六丁目6番17号	13111	81	35° 34' 35"	139° 41' 29"	2020年 8月1日 ～ 2020年 8月7日	21 m <sup>2</sup>	分譲住宅建 設工事に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
久ヶ原遺跡	集落跡	弥生時代		住居跡1軒		弥生土器		
要約	本調査地は、武藏野台地の南東端にあたる久が原台の南半分に展開する「久ヶ原遺跡」(大田区遺跡番号81)の西側中央部に位置する。今回の調査では、弥生時代後期の住居跡1軒が検出された。遺物は、1号住居跡から出土した弥生土器片74点など、総計83点が出土した。							
資料の 保管機関	大田区教育委員会 大図書館 文化財担当 〒143-0025 東京都大田区南馬込五丁目11番13号 (大田区立郷土博物館内) TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283							

東京都大田区

### 久ヶ原遺跡

#### 発掘調査報告書

—久が原六丁目6番17号地点の調査—

発行日 令和3年1月5日  
発行 創建ホームズ株式会社  
共和開発株式会社  
編集 共和開発株式会社  
印刷 株式会社 東ブリ